

6

中国

敦煌莫高窟第57窟

現在の中国甘肅省の西端に位置する敦煌は、古来より中国と西域をつなぐシルクロードの要衝でした。敦煌莫高窟の草創は文献によると4世紀に遡り、以後およそ千年にわたって連綿と石窟が開削されてきました。莫高窟は各時代の美術を総覧することのできる稀有な文化遺産として、1987年に世界遺産に登録されています。

第57窟は、唐代最初期の開削とみられています。正面（西）壁には二重の龕（^{がん}仏像を納めるため岩壁を掘りくぼめた場所）を開き、本尊如来像を中心に、本来は計七尊の塑像が安置されていました。両側壁は中央を区画して仏浄土の情景を描き、その周囲を千仏で埋めています。このような壁画構成は前代の要素を引き継いでいますが、壁画様式は初唐になって新たに出現した精緻で華麗な画風を代表するもので、法隆寺金堂壁画との共通性も度々指摘されてきました。

莫高窟を保護・管理・研究する敦煌研究院では、年々飛躍的に増大する観光客によって文化遺産の劣化が加速度的に進むという懸念から一部の窟で拝観者を制限しています。



敦煌莫高窟がある絶壁